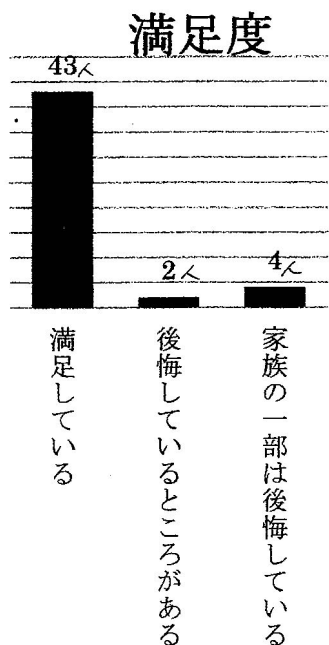


われもこう 第35号

2014年4月23日 発行

新住民、別荘民に聞きました。

軽井沢ってどんなところ？



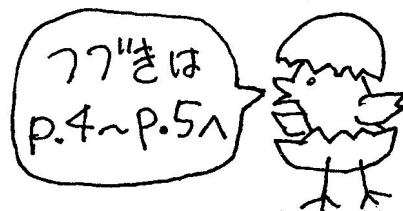
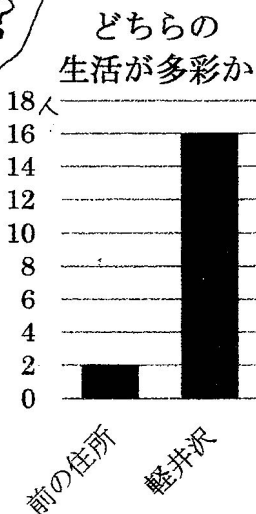
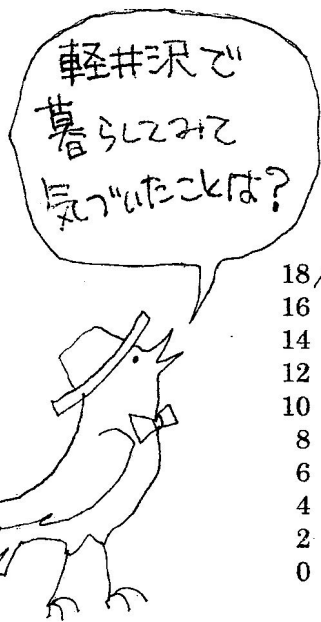
私たちのまち、軽井沢がどんなところなのか、意外と整理されていないように思ったこと、ありませんか？今回「われもこうの会」は会員や知人宛のアンケート調査を行い、その一端を調べてみました。

まちの特徴は、他の地域との比較によって明らかになるものです。そこでアンケートを他の地域から軽井沢に移り住んだ転居者や別荘の方をお願いしました。答えていただいた方は52人。その内、92%の方が60才以上、定住者が82%（半年以上お過ごしになる半定住者を含めると88%）、また11年以上にわたって滞在・居住されている方が64%といったところです。

軽井沢は正規雇用の少ないまちです。多くの若い方や中年の方にとっては住みやすいまちとはいええないかもしれません。

また年輩者も様々です。しかし、軽井沢でお過ごしになっている年輩の方々の反応は、予想以上に軽井沢生活をエンジョイされている姿でした。

軽井沢を転居先あるいは別荘地として選んだことに対しては、88%の方が「満足している」とされ、「転居前より転居後の方が多彩な生活をしている」と答えた方が89%に上ります。



震災復興

四年目の春

大槻 幸一郎



今年三月十一日で震災から三年が過ぎた。多くのマスコミが特集を組んで、復興の現状や被災者の声、行政担当者の声などを発信している。

直接復興に関わってきた者として、この三年間をレポートしたいと思う。

私が所属する「ある会社」は、空から航空写真を撮影して地図を作る会社として発足して今年で六〇年になる。

仙台支社の戦いは震災の翌日から始まった。地元の宮城県や岩手県、そして原発事故が起きた福島県を管轄しており、県からの被災地撮影や復旧計画への見積もりが殺到した。急を要するのが瓦礫の撤去である。どこにどれだけの量があるのか。どこに仮置き場を作り、どのような手順で処理するのか。被災者の住む仮設住宅をどこに作り、そして本格的な居住地となる高台への移転計画をどのように作るのか。町の産業復興

に合わせて街づくりの青写真をどのように作るのか。

多くの復興事業に必要となるのが、現況の地図である。津波で多くの家屋が失われて、古い家屋地図が役に立たない上に、高さなどの地形がすっかり変わってしまった。今、直ぐに必要な地図をどう調達するか。復旧・復興の鍵となり、航空測量会社の不眠不休の毎日が続く事となる。

電気・ガス・水道等のライフラインが遮断された中で、仙台支社の自活の戦いを支えたのが周辺からの救援物資である。お隣の山形県の同業者からは、米・味噌・ガス・鍋釜などの食料と炊事道具。全国の我々の支店・営業所からは、水や保存食品などの仙台では直ちに売り切れとなった物資を、ガソリン携行で東京本社社員が直接車で走って届けた。常磐高速道の原発事故による閉鎖、東北道の自衛隊車両など災害救援車両の優先走行の中で、見知らぬ道路を自ら手探りしながらの仙台への輸送隊は苦労を重ねた。普段カーナビのソフトを作る側にいるのだが、このときほどカーナビをありがたく思ったことは無かったと言う。

仙台での食事作りは老練な社員の仕事。

大極拳師範を極めるツワモノだけあり、腹が座っている。泊り込みで疲れ果て、時に殺気だつ社員をなだめすかしの指揮をして約一ヶ月間、一日三食分の食事を作り続けた。

このメンバー達は社員の食事を作るだけではなく、被災時から今日まで年間四回ほど被災地に出かけて炊き出しボランティアを続けている。社員に加えて、普段行きつけの焼き鳥店のオヤジサン等も加えてのボランティアメンバーに、被災地の皆さんはホッと一息ついてくれているようである。

あれから三年。また春が巡ってきた。津波被災地の瓦礫は撤去されたが、ただ広がる大地の空間に人の姿はなく静けさだけが広がる。「復興はどこだ、復興って何だ。」の声が聞こえてくるのもわかる気がするが、この三年を必死で働いてきた行政担当者や支援してきた民間会社も多数あるのも事実だ。

高台移転の候補地がようやく決まっても、土地所有者が亡くなっていたり、地元になくて連絡の仕様がなかったり、親族関係者へも連絡が出来ないなどの土地所有権に係わる課題が山積しており、いつ正式に移

転地を決定できるかの見通しが立っていない所も多い。

加えて工食用資材の値上がりや労賃単価の上昇が、東京オリンピックを初めとする全国的な公共事業の拡大の中で顕著になっており、被災地での工事入札の不落物件の多発などが復興の遅れに強く影響している。

岩手・宮城はまだ良いが福島県はもつと悲惨だとの声が聞こえる。原発事故の影響で、除染事業が絡む土地の復旧・復興は、この先一体どうなっていくのか、見通しを立てるのは本当に難しい。除染された汚染土壌や資材類をどこで管理するのか。「中間的な保管はやむを得ないが、最終処分場としての受け入れは反対だ」等の健康被害を気にする意見には納得できるところが多い。

除染事業は、監督する立場にある環境省を初め、参加する多くの企業が未経験の仕事への試行錯誤の積み上げで成り立っている。我が社も、空からの写真撮影による被災地情報の提供に加えて、放射能汚染地での放射線量の情報提供で復興支援を行っている。被災後一年が経ってから、外国事例の分析や国内での実験的処理の積上げを重ねて、ようやく除染事業の方向性が明らか

になり今日に至っている。しかし、一般家屋、公共建築物、公園、田畑、山林と除染対象はまちまちであり、除染手法も多様である。事業に協力的な住民もいれば「電力会社憎し」で土地の立ち入りに同意しない住民もおり、除染事業者は行政担当者とともに苦勞をともししている。

除染による効果を信じて多くの住民が、剥いだ土を庭先に仮埋設している。しかし除染効果への疑問がちらほら聞こえてくる。完全に除去したはずの放射線物質が屋根瓦の間に残っていたり、道路や敷地の片隅に残っていたりして放射線量が徐々に除去前に近づいて来ている箇所もあるのではないかとの不安の声である。仮にそうだとすれば、除染に使われた巨額のお金は何だったのか、無駄使いではないのかとの指摘がマスコミの言い分である。除染作業員の行動を、遠くの樹木の陰から望遠レンズで狙っていて、放射線で汚れた長靴を小川で洗っている作業員を作業基準（マニュアル）違反だと摘発した新聞があった。過酷な労働条件下での僅かな気の緩みを、除染作業の実態であるがごとき報道姿勢に自分は社会正義とは何かを疑ってしまう。

人間は、辛い過去を忘れることで前向きに生きていけると言われている。それにしても、この度の震災被害は、高く建設された防潮堤への過信等、過去何度も経験した辛い過去を忘れた油断が、被害を大きくした要素の一つであると言われている。

今回の震災で軽井沢住民が学ぶは、浅間山噴火時の事前の防災対策に尽きるのであるまいか。噴火時にはその予兆が住民に情報共有されて、事前の速やかな対応準備がなされることを期待するが、本当に旨く行くのであろうか。

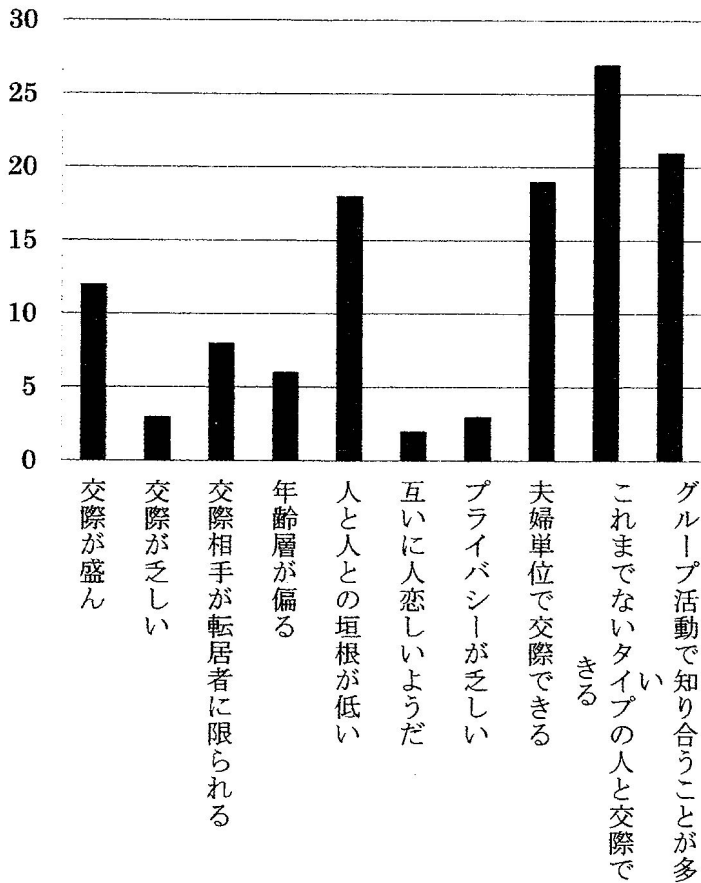
「貴方の家では、浅間山噴火時の避難マニュアルが出来ていますか？」

我が家では、旅行で使い古されたキャリアバック二個に水や食料等の避難物資が詰まっている。

そして避難先は、対岸に浅間山を遠くに望む風越地区の南側に走る妙義山スーパールードと決めている。東北震災時の教訓から自動車避難にはリスクが伴うが、浅間山噴火に伴う火砕流から逃れるには自動車での高台避難しか手が無いように思うが皆さんの意見を是非伺いたいものだ。

―― 災害は忘れた頃にやってくる ―

お付き合いの特徴 図2

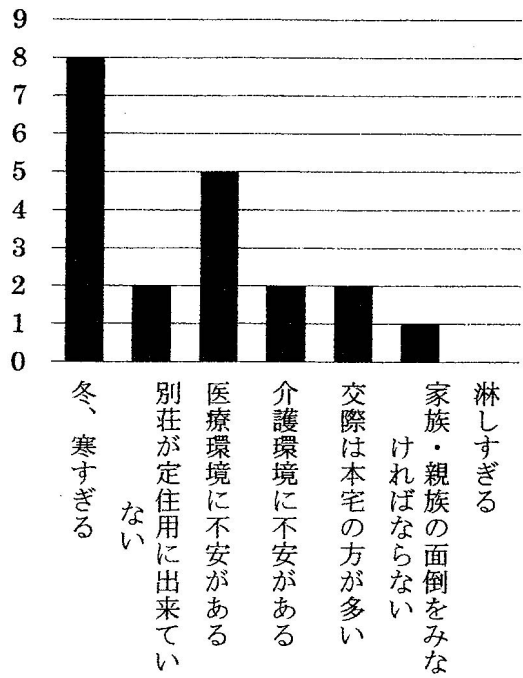


お付き合いについて、次いで多い回答順に「グループ活動で知り合うことが多い」、「夫婦単位で交際できる」、「人と人との間の垣根が低い」、「交際が盛ん」が並びます。自然が豊かでありながら、生活が便利でしゃれたお店もあるということ、温かな人間関係でありながら「ほどよい距離感」や多様な人が集まっているということ、これらは「田舎」と「都会」が両立しているということでしょう。この二つを同時に享受できるということは実に贅沢なことです。そして、こうしたまちは他にはないでしょう。

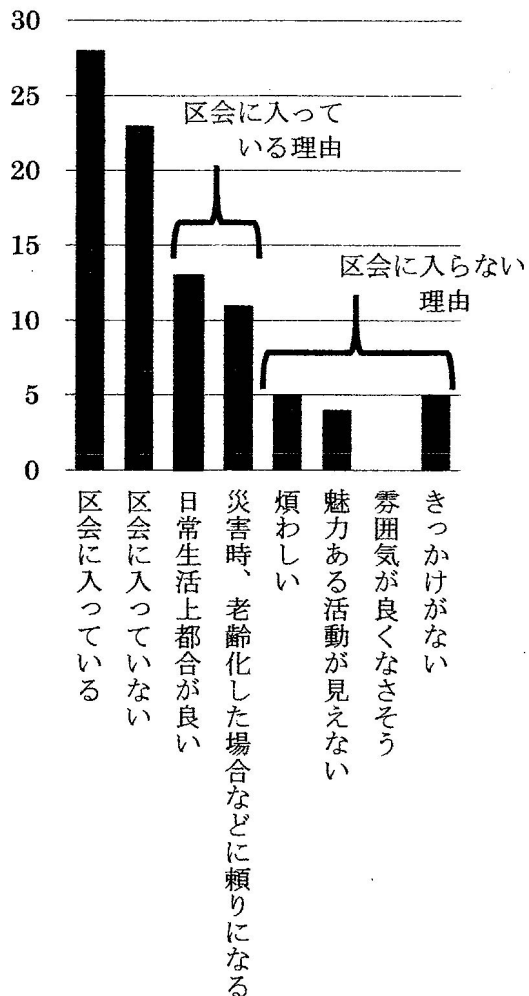
区会については、過半の方が加入しています。つながりが濃くなって良かったという方も少なくないものの、加入してもメリットを感じないというコメントも無視できないものがあります。転入者と長らく町内に居住されている方との間の感覚の相違という、軽井沢の大きな問題がここにも関係しているかもしれません。

・・・軽井沢がいつまでも素敵なまちでありますように・・・

永住をはばむ原因は？ 図3



区会に入っていますか？ 図4



新住民、別荘民に聞きました。

軽井沢ってどんなところ？

軽井沢に住んでみての印象を集計したのが図1です。回答数の多い順に、「自然の豊かさ」、「自然破壊の進行」、「医療環境が良くない」、「酷寒」、「大きな富の格差」、「買い物など生活の高い利便性」、「しゃれたレストランがあるなど都会的」、「文化はいわれるほど高くない」、「生活費が安い」・・・などが続きます。これらは転居後の印象ですが、転居以前のイメージについても同じ質問をしているものがあり、これを白棒で示しておきました。

『「自然に抱かれない」とやって来たが、意外と便利で都会的だね」といった声が聞こえてきます。「極寒」も実際に体験しなければわかりにくいでしょう。「医療が良くない」との声も多いのですが、「開業医を含めると医療機関は少ないとはいえ、30分も走れば総合病院がいくつもあり、むしろ恵まれている」とのコメントもありました。なお、大多数の方が満足されているものの「ここで骨を埋める」は46%にとどまり、「わからない」が48%に上りました。この「極寒」と「医療」が大きな理由となっています。

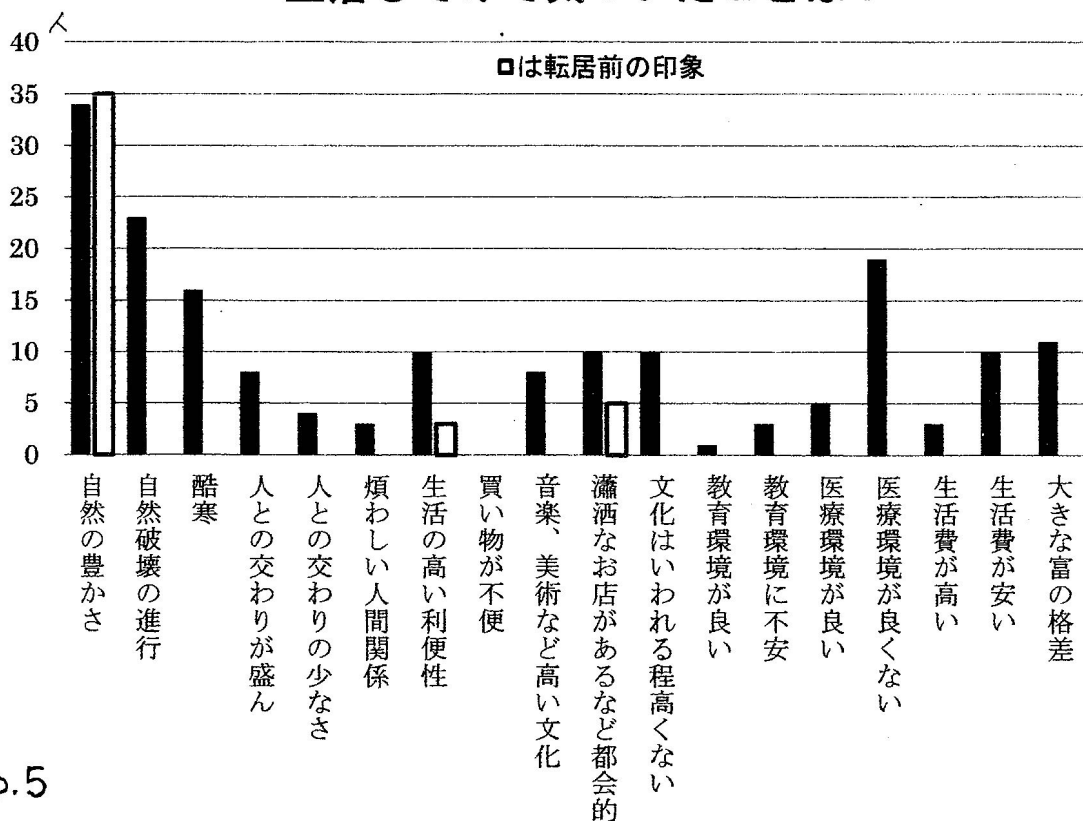
人間は社会的動物ですから、人との付き合いの良し悪しは生活の快適さを左右します。これについても、アンケート調査は高い評価を出しています(図2)。最も多い回答は「これまでにないタイプの人と交際できる」です。

軽井沢は一種の都会ですから多様な人が集まっているのですが、都会と違って人の数が少なく、「行き会う」機会が多いということでしょう。逆にいえば、他の、特に小さなまちでは考えられない出会いが軽井沢では起こり得るということです。ある回答者が「軽井沢は世界の縮図のようなどころがあって、とても面白い」と書いていますが、そういった事を指していると考えられます。

「彩霧」という、円地文子書いた非常に不思議な小説があります。当初は「軽井沢」という題名であって、軽井沢を舞台としているのですが、「あり得ない出会い」がこのまちではあったかもしれないと読者に思わせるところがあります。

生活してみて気づいたことは？

図1



◆ 我が町、我が村、

・ ・ ・ 杉瓜の里

軽井沢町に三〇程ある区の中でも、こぢんまりした杉瓜。

現在世帯数二八、住民の方約一〇〇名です。場所は、「杉瓜入口」のバス停から一、五km程、歩いて約三〇分で集落に着きます。

私は、杉瓜区民になって十年、村の方々に気持ちよく受け入れていただいています。子供たちとも友達付き合いをしています。十日夜の夜には、子供達が藁鉄砲を持って我が家に来て、みんなで囃子歌を歌いながら地面を叩いて賑やかです。こういう伝統が身近に経験できることもいいことですね。

また杉瓜には、由緒ある杉瓜観音堂があります。これは集落の南側の山腹にひっそりと佇んでいます。この歴史は古く、七〇〇年以上ともいわれています。その昔、馬が交通手段であった時代に馬を守護する馬頭観世音が安置されたのがその始まりと言われています。今では、春と

秋に集落入口に幟を立て、祭りの世話人を中心に村の方々と観音堂へ昇り、全員で恭しく手を合わせお祈ります。この他にも、杉瓜山之神社、杉瓜道祖神などがあり、その由来なども村の長老からお聞きしたいと思っています。皆さん！是非、杉瓜の里へ！
つつちー



◆ 中部小クラブ活動に参加して

中部小学校の『軽井沢自然クラブ』に参加して丸六年が過ぎた。中心になって子供達を指導して下さるのは栗岩竜雄さんで、我々われもこの会のメンバーは

補佐的な役割である。特に私は草花の種類や名前は苦手なので、子供達の質問はほとんど小泉さんや丸山さんに丸投げしているのが現状の為、子供達に遊んでもらっているようなものである。とは言え何か役立たねばと、主に校外での自然観

察なので事故の無い様に気を配る事を主に参加している。

そんななかで栗岩さんはとても温かく子供達に接し、特に熱心な子供達には授業が終わってから指導をされることもしばしばで、頭の下がる思いでいる。

年に八回くらいある授業で元気で屈託のない子供達の笑顔や会話に、我々メンバーは楽しい時間を過ごしているが、私はふと、自分の子供の頃の事を思い出し、どちらの方が幸せなのかと思うことがある。今の子供達は何の不足もなく満たされている。我々の頃は何も無かったけれど自然はいっぱいあった。社会全体に明るい兆しが感じられた。今の世の中はそんな点では疑問符がつくと思うのは私だけだろうか。

原発の問題、過剰なナシヨナリズムからくる戦争への不安、一向に回復しない経済、借金まみれの国の台所等々、この掛替えのない子供達の顔を見ていると、そんな不安を少しでも無くさなくては、つい思ってしまうのだ。

玉野上 正俊

レンゲショウマの 増やし方

◎株分けしてもらったら・・・

レンゲショウマが気に入った場所であれば苦勞することなく自然に増えて行きますよ～。

種は周りの木々が葉っぱをすっかり落とす頃(11月中旬頃)かさかさ乾きます。

種を採り、レンゲショウマが咲いていた周りの枯れ葉を除いて土の上に播き、その上にまた枯れ葉をもどしてあげます。

翌春、親の芽が出始めるころ小さい子供の芽が出てきます。2年目くらいそのままにして3年目位で親と間隔を30センチ位離して植えるかえると育ちが早くなります。

大きな木の下、腐葉土が沢山あるようなところなら、芽が出て4年目くらいで花がつきます。

◎種から育てるなら・・・

種が実る秋、直播きでもOKですが、貴重な種は春、種まき用のプレートや鉢に播いた方が確実です。

霜の心配がなくなるまでは室内で。暖かい日は外、夜は室内へとこまめに出し入れすると、梅雨入り前までにけっこう成長します。

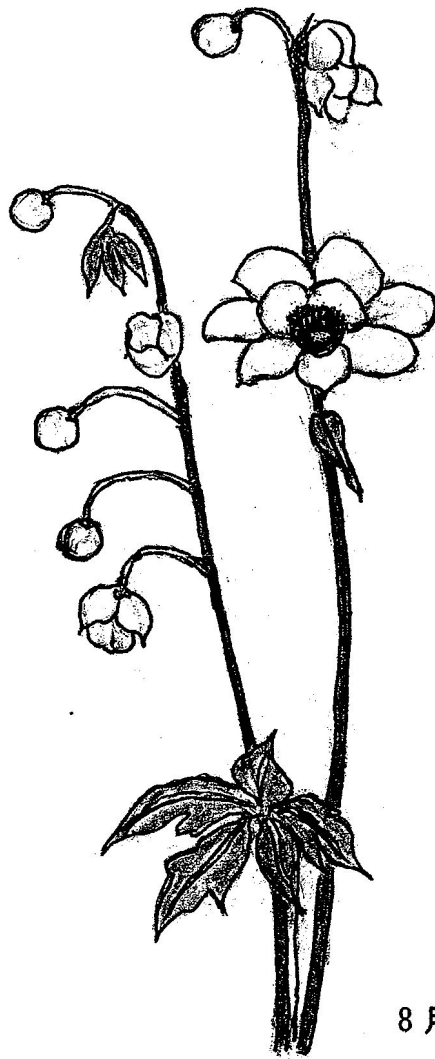
ある程度大きくなったら地植えして下さい。

何年か前の夏、旧軽井沢の別荘地でレンゲショウマが群生し、たくさん花を咲かせているのを見かけました。それからずっと、いつかうちの庭でもこの花を咲かせたいと思っていました。

そして三年前、われもこちらの会員のヒロコさんからレンゲショウマの鉢植えを戴きました。最初の年は鉢植えのまま花を楽しみましたが、せっかくの山野草、我が家の庭に根付いてほしいと、木漏れ日が当たる程度のやや湿気たところを二か所選び、地植えにしました。

地植えにしてから株が大きく育ち、種も収穫してイベントの時などにほしい方に配ったりしました。

今年はさらに増やしたいと、ヒロコさんにコツを教わりましたので、ここで紹介いたします。



キンポウゲ科
レンゲショウマ属
1属1種の日本固有種
8月頃淡い紫色の花をつける

